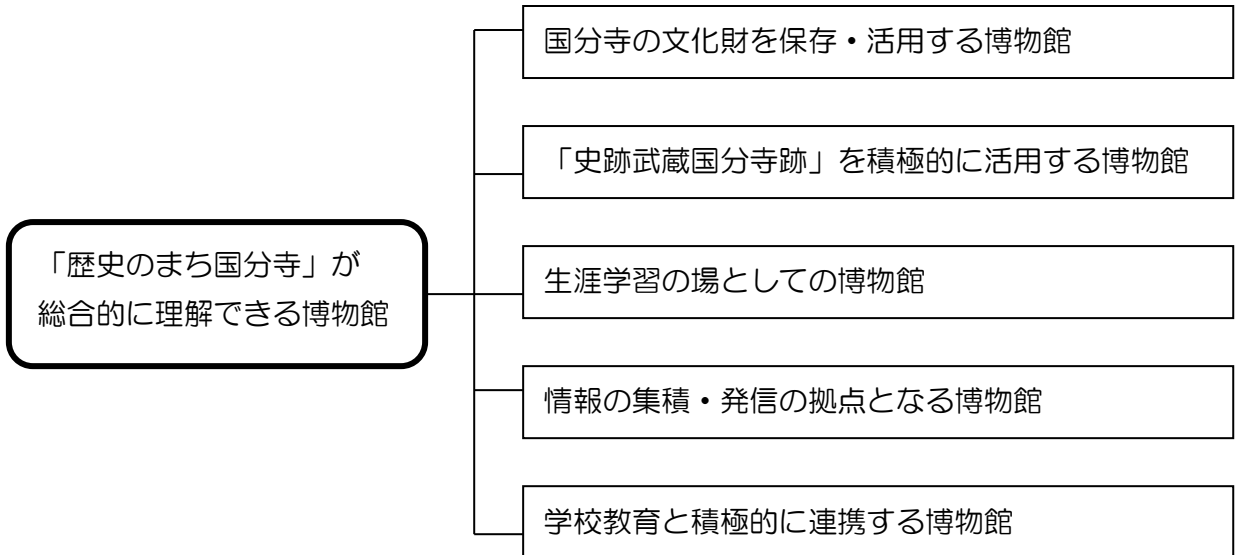


(仮称) 郷土博物館建設基本構想 (平成5年3月) の概要

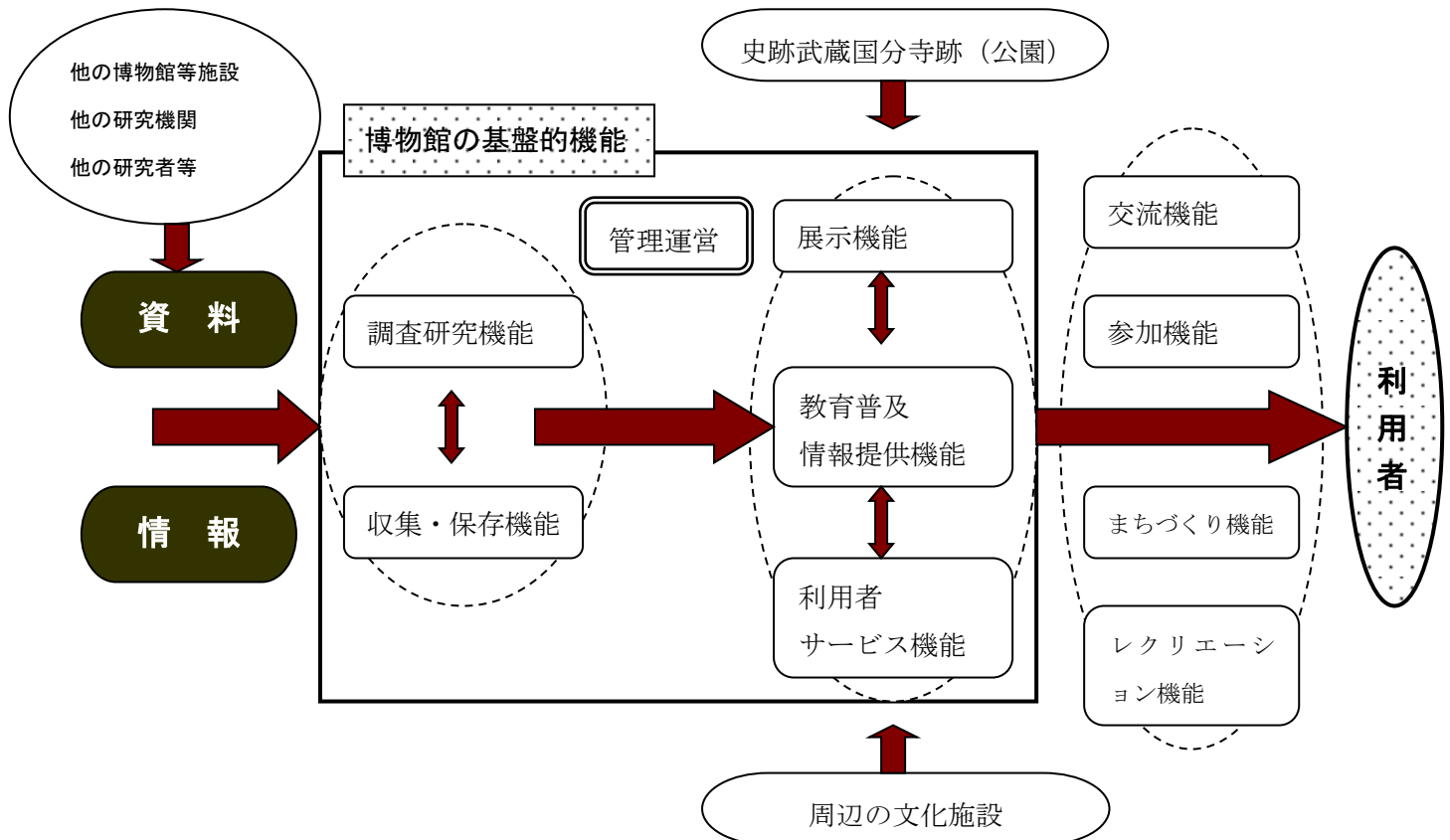
1) 設置の目的

国分寺市の歴史的文化遺産の保存と活用を図って、郷土の歴史と自然・風土に対する知識と理解を深め、郷土を愛する市民意識の育成及び新しい郷土文化の創造・発展に資して、「国分寺の名にふさわしい歴史のまち」を実現する。

2) 基本的な性格



3) 機能 (概念図)



4) 事業活動のあり方

- ① 国分寺市は歴史的文化遺産と自然が一体的な環境となっている首都圏でも貴重な場所であり、交通の便が良いことを踏まえ、市民をはじめ広域の利用者に応えられる事業活動を行う。
- ② 調査研究を総合的・学際的に実施し、その成果を展示や教育普及活動等に積極的に公開・活用する。
- ③ 調査研究や展示、教育普及に必要な資料を収集し、体系的に整理し、適切に保存する。
- ④ 調査研究、収集保存活動の成果を展示して発表する。常設展示、企画（特別）展示、野外展示を組み合わせる。
- ⑤ 生涯学習の拠点の一つとして、市の歴史的文化遺産や自然の活用を中心に、館内や館外で展開する。
- ⑥ 高度な学習意欲を持つ利用者に対し、様々な情報提供を行う。
- ⑦ 子供たちの郷土学習の効果を上げるために、博物館と学校とが相互に連携して、有機的な活動を行う。
- ⑧ 利用者が気軽に訪れやすく、いつでも訪れる楽しみを発見できるようなサービスを充実させていく。
- ⑨ 市内外の幅広い利用者に対して、博物館への理解を促すため、充実した広報を行う。
- ⑩ 多くの人の利用を促すために、利用者に対する積極的な働きかけが必要であり、利用の開発や団体利用の誘致のための営業活動等を行う。
- ⑪ 博物館の事業活動の一環として、整備した史跡公園を管理する。

5) 展示構想のあり方

- ① 常設展示は市の歴史と自然・風土及び史跡武蔵国分寺跡を総合的に取上げた特色あるものとする。
- ② 企画（特別）展示は、明確なテーマのもと、他の博物館等からの借用資料も含め、一般市民も興味深く観覧できるようにする。
- ③ 野外展示は、博物館のシンボルとなる大型展示物や体験学習の場ともなる住居の復元など、来訪者を屋内へ導く魅力に富んだ臨場感のあるものとする。

6) 立地のあり方

- ① 史跡武蔵国分寺跡隣接地であること
(史跡武蔵国分寺跡をはじめとする歴史資料の市民への開放、展示、学習、研究の場として、さらには史跡公園の維持管理の拠点とするため)
- ② 博物館活動に必要な面積が確保できること
- ③ 将来の増築が可能であること

- ④ 湿気・大気汚染などの影響が少なく、資料を安全に保存できること
- ⑤ 防災上安全であること
- ⑥ 市民や市への来訪者が気軽に来館できるために交通の便が良いこと
- ⑦ 資料の搬入搬出が容易なこと
- ⑧ 市民や市への来訪者が気軽に来館できるために交通の便が良いこと
- ⑨ 他の文化施設に近く、相乗的な効果が期待できること

7) 施設のあり方

- ① 建物の延床面積は最低 2,500 m²を確保すること
(人工密集地域であることや史跡武蔵国分寺跡の利用拠点となることから、標準：2,000 m² 以上の利用者が予測されるため)
- ② 増築・改築が行える施設とすること
(資料や情報の増加にあわせた増改築や、老朽化や時代の変化にあわせた増改築が容易に行える必要がある)
- ③ 十分な敷地面積を確保すること
(建物の増築に対応出来るため、並びに屋外施設、例えば、駐車場や野外展示施設、野外実習スペース、休憩スペース、作業スペース、資材スペースなどを整備するため)
- ④ 博物館活動に必要な空間を備えた機能的な施設とすること
(人や資材の流れ、資料の保存、利用者の便、教育普及活動の内容、調査研究の内容、防災・防犯を含む施設の管理方法などを総合的に検討し、活発な博物館活動が行える機能的な施設とする必要がある。)
- ⑤ 発掘調査関連の遺物は博物館とは別の施設で保存することを原則とすること
(埋蔵文化財の調査拠点、発掘調査関連遺物・調査記録の保存スペース等確保のため、埋蔵文化財センター延床面積 750 m²の併設を予定する)
- ⑥ 敷地内の重要遺跡の保存に充分配慮すること
- ⑦ 開かれた博物館のために、誰もが利用し、楽しみ、親しめること

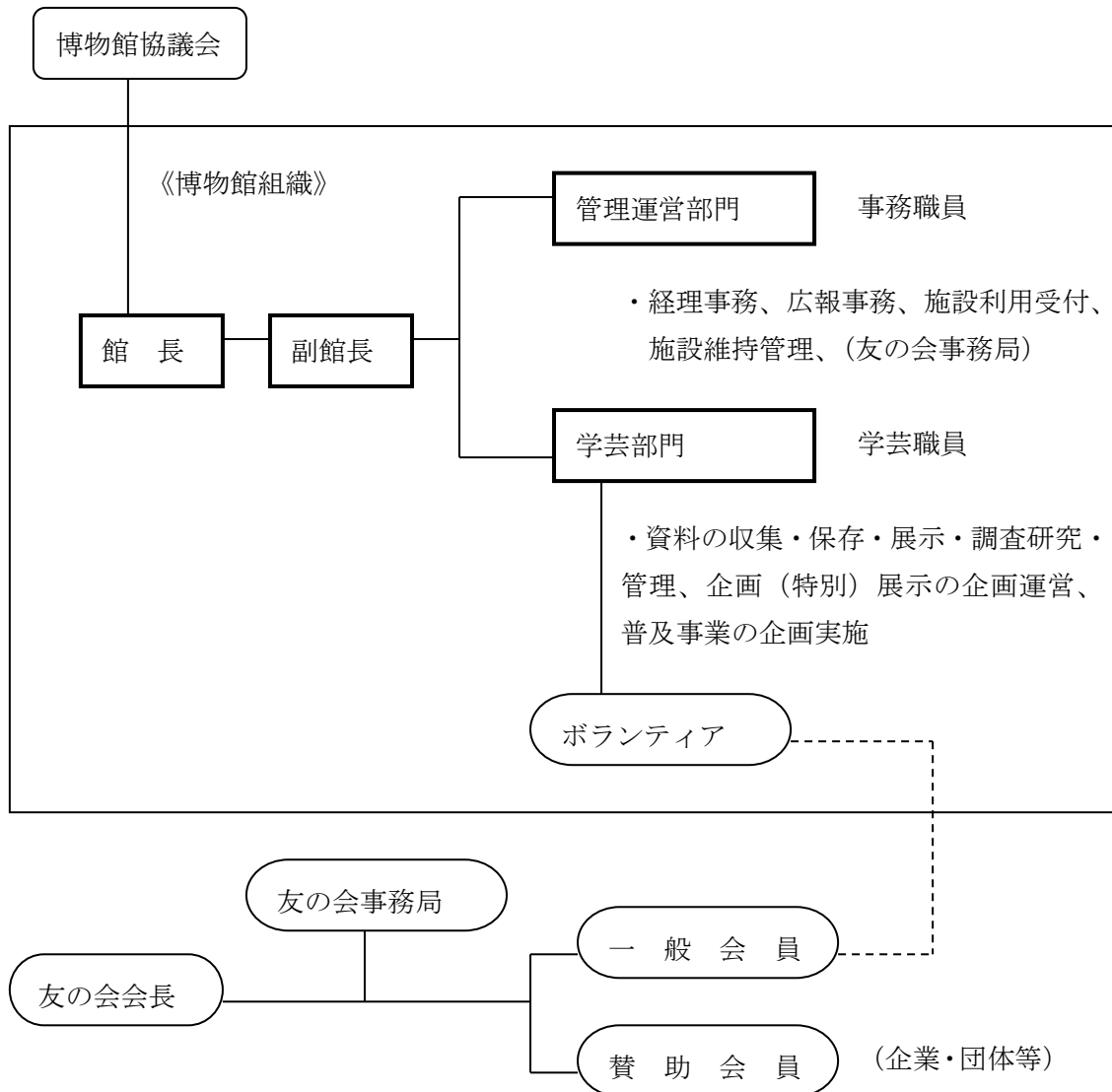
8) 管理運営のあり方

① 基本的

博物館の管理運営体制には、安定性と柔軟性、開放性が求められる。

博物館の使命として、貴重な資料を長期的に保存し、調査研究を基盤に、信頼度の高い情報を蓄積し提供すること、質の高い展示や教育普及活動を継続的に実施することが挙げられる。そのためには、長期的な展望に立った計画性や活動を支える優秀な人材と充実した人員配置、明確な事務分掌等が必要。

② 組織構成例図



9) 開館までのスケジュール（標準）

- 1 年次 資料調査・収集計画の検討・準備
- 2 年次 資料調査開始
- 3 年次 資料調査・収集継続、基本計画策定調査
- 4 年次 資料調査・収集継続、開設準備室設置
基本計画（展示基本計画含む）、用地取得
- 5 年次 資料調査・収集継続、事業実施計画、展示基本設計、
建物基本設計、情報システム基本設計
- 6 年次 資料整備・追加収集、事業開発開始、展示実施設計
建物実施設計、開設特別展準備開始
- 7 年次 建築工事、展示制作、情報システム制作
- 8 年次 建築工事、展示工事、情報システム制作、開館準備
解説員・ボランティア教育、資料移転準備、開館

以上